

主に知的障害のある人を対象とした 障害者虐待防止研修

令和元年 7月10日

打浪 文子

(淑徳大学短期大学部/一般社団法人スローコミュニケーション)

uchinami@daijo.shukutoku.ac.jp

本講義のねらい

- ・知的障害のある人向けの虐待防止研修・権利擁護研修等の必要性を知る
- ・知的障害のある本人たち向けのワークショップ等を行う際の要点を理解する

<ポイント>

- ・知的障害ある人たちへの「エンパワメント」
- ・言いやすさ・話しやすさを作り出す工夫
- ・一人ひとりの声を聞くワークショップのあり方

障害者虐待防止法 「わかりやすい」版の紹介

知的障害者と虐待

知的障害児・者の虐待は明らかになりにくい

- 虐待事件の本質が利用者本人に理解されていない
- 虐待による本人の行動が利用者の問題行動とされる
- 加害者が職員・家族等である
- 公的機関や施設等の虐待対応が十分でない

利用者が言わない、言えない、あるいは
言っているのに声が届かない状況をどうするか

⇒ 当事者へのエンパワメントの促進が必要

知的障害者のニーズ

「自分たちは **かんがえても うまくひょうげん** することが **むずかしい**。

どこが 人と ちがうのか **あいてに つたえることが むずかしい**。
おや まわりの人の つごうで ふりまわされている。

自分たちが どうやって **わかりやすい じょうほう**を もらい
けいけんをし、たっせいかんを えていくかです。

そのために **じょうほうの バリアを なくして ほしい**。
それが **ごうりてき はいりょ** です」(土本2011:32-33)※

※土本秋夫(2011)「バリア(かべ)とおもうこと」『ノーマライゼーション』31(12), 31-33

知的障害者向け障害者虐待に関する啓発

平成27年度 障害者総合福祉推進事業

「知的障害者が制度を理解するための 情報提供のあり方に関する研究」

((福)大阪手をつなぐ育成会受託)

- ・障害者虐待防止法・障害者総合支援法の
「わかりやすい」版パンフレットの作成
- ・上記を用いたワークショップの実施

障害者虐待防止法 パンフレット p1より

わかりやすい版^{ばん}

虐待^{ぎゃく たい}されたら
“やめて”^いと言おう

障害者虐待防止法^{しょうがいしゃぎゃくたいぼうしほう}は あなた^{まも}を守ります

(法律^{ほうりつ}の正式な名前^{せいしき な まえ}は「障害者虐待^{しょうがいしゃぎゃくたい}の防止^{ぼうし}、障害者^{しょうがいしゃ}の養護者^{ようごしゃ}に対する支援^{たい}等^{し えんとう}に関する法律^{かん ほうりつ}」といいます)

知的障害者むけの 虐待防止ワークショップ

障害者虐待防止法 ワークショップの例

1. 趣旨説明
2. アイスブレイク～導入
3. ロールプレイ
4. グループワーク
5. パンフレットの内容の確認(まとめ)

参考:『Taking Charge!』 PandA JAPAN

障害者虐待防止法 ワークショップの例

準備物：

- ・パンフレット(わかりやすい版)
- ・ワークシート等の配布資料
- ・司会用のパワーポイント・進行資料
- ・ロールプレイ用のネームカード
- ・意思表示カード(「○」「×」「?」「!」など)

障害者虐待防止法 ワークショップの例

1. 趣旨説明（5分程度）

- ・今日は何を目的としているのか

- ・どういう学習方法で行うのか

（グループで話し合いをする等）

▼参加が強制ではないことを伝える

▼疲れたとき・つらくなったときは休んでいい

ことを開始前にアナウンスする

（別室を用意しておくとい）

障害者虐待防止法 ワークショップの例

2. アイスブレイク～導入(15～20分程度)

- ・レクレーション
- ・他己紹介など、経験の共有が可能なもの

▼参加者同士の交流を促すような声掛け

▼語りづらいことを話せるような雰囲気づくり

語りづらい経験がある場合は、確認を

障害者虐待防止法 ワークショップの例

3. ロールプレイ (15分程度)

- ・虐待場面を想定した事例の脚本を用意

▼ロールプレイは参加者自身で行うことが前提

▼支援者は状況説明、進行を見守るのみ

参加者だけでの実施が難しい場合は

支援者と参加者が一緒にロールプレイする

障害者虐待防止法 ワークショップの例

4. グループワーク（20分程度）

4~6人程度のグループに分かれ、
ロールプレイや「虐待」に関して話し合う

- ▼各グループに1名以上、話し合いを進行する
支援者または当事者ファシリテーターを置く
- ▼「虐待」について考えられるような質問・
声掛けを行い、一人一人の声を聴く

障害者虐待防止法 ワークショップの例

5. パンフレットの内容の確認(15分程度)

- ・話し合いに基づき、今後どういう行動をとればいいかについて理解できるようにする

▼「虐待」の定義を伝える(「いやだ」ということ)

▼「虐待」はいけないことであること、

「虐待」されたら「相談」することを確認する

▼質疑応答の時間を設ける

全体的な留意点

- 人数：
参加者は20～25人くらいが適当
支援者はグループワーク時に各1人必要
- 被虐待者が参加する場合：
フラッシュバック等に注意、見守りや配慮を
- ロールプレイの脚本：
参加者の経験から企画できれば◎

支援者の進行・声掛けに関する配慮点

- ・困っていることや辛さを、共感的に理解する
- ・答えをせかささない、ゆっくりと話す
- ・意思表示のためのカードなどを活用する
- ・5W1Hのオープンクエスチョンは苦手
回答が難しい場合はYes/Noクエスチョンに

ワークショップの応用・展開①

- ・パーツに分けて学習を行う場合：
虐待の種類ごとの解説・グループワーク
ロールプレイ・グループワークを複数回にする
- ・特定のグループに対して行う場合：
参加者の属性や特徴に配慮
- ・当事者主体的であることが理想的

ワークショップの応用・展開②

ワークショップが当事者主体的であること
「ピア・カウンセリング」の効果

- ・虐待に関する知識の共有
- ・当事者による当事者のエンパワメント
- ・ピア（仲間）との関係や、経験の共有を重視したワークショップづくりを
- ・本人活動・当事者活動組織との連携

まとめ

まとめ ①

- ・ワークショップの感想
- ・当事者が行政関係者、支援者に伝えたいこと
- ・虐待防止法ワークショップを行うにあたって

まとめ ②

本人向けの虐待防止研修

「虐待」についての知識や理解の促進

虐待に対し「声を上げる」ことを支援するもの



「わかりやすい」パンフレットと、ワークショップは
その実現のための手段

エンパワメント、セルフアドボカシーに不可欠

参考:

当事者向け虐待防止研修に役立つ資料

わかりやすい版 障害者虐待防止法パンフレット

<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12200000-Shakaiengokyokushougaihokenfukushibu/0000121196.pdf>

障害者虐待防止法 ワークショップ実施マニュアル

http://www.osaka-ikuseikai.or.jp/jigyo/file/honninkatudou/sougou-gyakutai_shiryo.pdf

障害者虐待防止法 ワークショップ用スライド

http://www.osaka-ikuseikai.or.jp/jigyo/file/honninkatudou/sougou-gyakutai_shiryo.pdf

参考:「わかりやすい」情報提供・コミュニケーション支援に関する資料等

わかりやすい情報提供のガイドライン

<http://www.osaka-ikuseikai.or.jp/jigyo/file/honninkatudou/sougou-guideline.pdf>

打浪文子(2015)「知的障害者への情報提供——わかりやすい情報提供の実現に向けて」 <http://synodos.jp/welfare/14700>

坂爪一幸・湯汲英史(2015)『知的障害・発達障害のある人のための合理的配慮 ―自立のためのコミュニケーション支援―』 かもがわ出版

ドロップレット・プロジェクト編(2010)『視覚シンボルで楽々コミュニケーション 障害者の暮らしに役立つシンボル1000』 エンパワメント研究所